

地理的学習の興味について

— 小学校高学年の場合 —

鵜島 富美子

I. はじめに

周知の通り、小学校社会科では分野別学習は行われていない。が、こういう社会科の地理的学習における学習内容、地域に対する高学年児童の興味を地域別に把握することがわらいてある。

II. 調査方法

調査方法は質問紙法による。その内容は紙面の都合で省くが要点は後述する。調査地域は比較考察を行う為、特色ある生活環境を有する都市的、漁業的、農業的色彩の強い3地域とする。調査校は平均3校である。調査対象は小学校における地理的学習の集大成的段階である高学年(5、6両学年)である。平均220余名である。

調査地域は青森県内9市町村であり、行政区画単位の産業構成、土地利用及び統計資料により3地域に区分したものである。

調査事項は社会科指導書や教科書などを参考にして定める。

1. 学習内容は5項目に分類したが、その要点を次に述べると

- ① 自然環境に関する事柄
- ② 諸産業と人間生活との関係について
- ③ 集落に関する事柄
- ④ 交通及び人口に関する事項
- ⑤ その他

教科書では②の割合が大きくなっている。これが少なからず児童に影響を与えていると思われる。

2. 学習地域は、小学校では諸生産活動により特色付けられる地域を編成して学習を行っている。しかし分類が困難であつたので、従来広く用いられている地域区分を、即ち

日本 北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州の8地方区分

世界 北アメリカ、南アメリカ、アジア、アフリカ、ヨーロッパ、オセアニアの6大州区分

を採用する。これらの区分には諸問題点、困難点が指摘されているのは周知の通りである。

調査 地域	学年別 性別	質 問 事 項						
		①	②	③	④	⑤ _イ	⑤ _ロ	⑥
A	5,6年	26.7	21.1	12.4	14.9	3.7	18.6	2.6
B	及び	31.5	29.0	8.8	10.5	0.8	16.0	3.4
C	男女	22.3	39.5	13.2	13.2	4.1	5.5	2.2
A	5年	17.3	24.7	17.3	17.3	3.7	14.8	4.9
	6年	36.2	17.5	7.5	12.5	3.8	22.5	0.0
B	5年	40.4	16.5	6.3	8.9	0.0	22.8	5.1
	6年	27.0	35.2	10.1	11.3	1.3	12.6	2.5
C	5年	17.2	36.1	15.6	15.6	8.6	2.6	4.3
	6年	26.1	42.0	11.5	11.5	0.6	7.7	0.6
A	男	29.7	17.9	8.3	21.4	3.6	16.7	2.4
	女	23.4	24.6	16.9	7.8	3.9	20.8	2.6
B	男	37.3	23.7	9.3	13.6	0.8	13.6	1.7
	女	25.8	34.2	8.3	7.5	0.9	18.3	5.0
C	男	30.1	33.7	12.5	9.6	4.5	7.4	2.2
	女	14.6	45.3	13.9	16.8	3.6	3.6	2.2

A：都市的地域 B：漁業的地域 C：農業的地域

①：自然環境 ②：産業と人間生活 ③：集落 ④：交通・人口

⑤イ：①～④以外の地理的事柄 ⑤ロ：歴史的 content ⑥：無答、その他

表1 学習内容に対する興味の傾向(単位%)

Ⅲ 調査結果と考察

Ⅱで述べたような方法による結果は次のようになる。

1、内容に対する興味の傾向を示したのが表1である。都市的地域Aや漁業的地域Bは①、②に集中している。農業的地域Cは②偏向型である。学年別には地域差が認められ、5年ではAが②、Bが①に集中し、6年になると逆を呈している。Cは両学年共②偏向型である。性別でも差が認められる。全体的にB、CはAに比べて偏向性が強くなっている。

これらは諸理由があると考えられるが、今回は深く追求できなかつた。しかし教科書における教材(内容)の配列や目標及び学校内外の学習経験、日常生活態度等も影響を及ぼしていると思われる。

2、次に地理学習を行う場合の学習地域に対する興味を眺めてみる。

先ず日本と世界に大別した場合の傾向は図1のようになる。Aでは女子以外は世界に興味を抱いている。特に男子にその傾向は著しく認められる。Aと好対象なのがBであり、圧倒的に日本が優位を占めている。AとBの間に位置するのがCであり、学年、性別により異なるが日本の方が優位である。これらけ児童の学校内外における諸体験も影響していると思われる。

Ⅳ 結 び

以上により次の事が考えられる。

- 1、内容に関して地域差が認められる。学習経験、生活環境等の差によると思われる。
- 2、学習地域に関しては、大区分の時は地域差が著しく、小区分の時は余り変化はない。世界はテレビの影響が多少作用していると思われる。
- 3、一般に漁業的地域の児童は都市的、農業的地域と異なる傾向を示し、何か消極的態度が認められる。
- 4、学年別、性別の差は多少認められる。ところで児童の興味の形成には単に彼らの考え方、性格ばかりでなく、学校の諸設備、彼らの学習経験、教師の指導法等も作用していると思われるが、今回はそこまで深めることができず予備的調査に終つた感がある。今後機会があつたら考えてみたいと思う。

最後にこれは卒業研究報告を要約したものである為、説明不足であるが御了承願いたいと思います。またまとめるに当つて指導して頂いた先生方、朝査に協力して頂いた方々に感謝致します。

主な参考文献

文部省編：社会科指導書

菊池利夫：地理学習の原理と方法

田中正麿：新しい地理教育